



関西支部報

<http://www.jackansai.com>

100周年から8年、今思うこと

平林克敏

日本山岳会に入会してから50数年が過ぎました。海外遠征に必要な外貨を得るためには日本山岳会員である事が望ましいと、当時ヒマラヤ遠征を志すものなら誰もが考えていました。私も全く同様で単純な動機で入会し、今日に至っています。

よく考えてみると神戸に住みながら関西支部のお手伝いはきわめて少なく、2年ほど学生部と集会の委員をさせていただいた程度で、ほとんどを東京本部で費やしておりその時間のほうが長かった事に驚くばかりです。

1987年、今西寿男会長が就任してから平山会長までの20年の間に、評議員を12年(うち常任評議員8年)務め、さらに副会長を4年させて頂きましたから、通算16年となります。常任評議員は理事会出席が慣例となっていましたので、この期間中の会報「山」をめくってみると地方から出かけて出席した者としては、出席率は優等生に近かったことになりましょう。理事会のみならず、いろいろな委員会や委員長を務めるほか、登山隊のお世話もしたので数えきれないほどの日数と時間だったといえましょう。

いま回想してみますと、2つの大きなイベントが未だ

脳裏に鮮明であります。その一つは、1964年春、当時の三田副会長から寄せられた一通の書簡がもとでした。“エベレスト登山について相談したい”との文面でした。この年、新たに発足した日本山岳会エベレスト委員会(横委員長)の傘下にエベレスト組織委員会(三田本部長)が設けられ、企画委員として村木潤次郎、大塚博美、松田雄一、住吉仙也、宮下秀樹、岩坪五郎、平林克敏の7名が選任され、本格的なエベレスト計画に取り組む事になりました。同年11月2日・3日、組織委員会の初めての顔合わせがあり、実行委員の分担を総務:松田・平林、装備:大塚、食糧:宮下・岩坪、医療・酸素:住吉と決定され、初会合となりました。当時、私は企画委員の基本コンセプトとして、全ての装備類を国産品で対応し、日本の工業技術を世界に示す機会でありたいと考えていました。そのうち私が担当した酸素呼吸器の開発については、マナスル以降の国産品に改良を加えエベレストに対応させることを第一の目標としていました。改良・改善等検討課題はたくさんありました。私が最初に取り組んだ酸素呼吸器については、酸素機器を開発している川崎重工が私の会社の近くにあったこと、また、マスク等

目次

100周年から8年、今思うこと	平林克敏	1
著者と語る会のご案内		3
関西支部と私		3
先人の足跡に導かれて	内田昌子	3
山から民族探検へ	藤本高嶺	4
支部山行報告		
陽だまり山行・播磨の山	中谷絹子	4
4000山グランプリ35		
ゆるやか山行	佐藤信治郎	5
北摂・北山を歩く21		
大西 保		6
4000山グランプリ34-2		
重廣恒夫		7
ゆるやか山行「里山探訪」歴史と文化を訪ねる1	森沢義信	8
松村文子		8
4000山グランプリ	黒田記代	9
ゆるやか山行「里山探訪」歴史と文化を訪ねる2	中田 榮	10
4000山グランプリ	辻 和雄	11
丹生山系「屏風谷源流から東の峰」		
阪下幸一		12
関西支部県境縦走5	黒岩敦子	12
わんぱく探検	茂木完治	13
4000山グランプリ	松仲史朗	14
関西支部県境縦走6	山本義博	15
大峰の名花「オオヤマレンゲ」を見に		
阪下幸一		15
山内幸子		16
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	秦 康夫	17
会務報告		
第1回(5月)委員会議事録		18
第2回(7月)委員会議事録		19
支部山行計画 13年10月〜12月		19
支部報告冊製本のご案内		21
案内 第24回藤木祭		21
第17回森の勉強会ご案内		21
編集後記		22

の開発を手伝っていただいた坂田技術研究所が住友ゴム工業の協力会社であった事も幸いして、新しい装置の開発に着手する事ができました。P29の計画に多忙な住吉さんも良き相談相手となって頂きました。登山料の半額をネパール政府に支払い、1966年春に実施するはずだった日本隊のエベレストは、1965年3月19日のネパール政府の登山禁止令によりお預けとなってしまいました。関係者の多くは散り散りになってしまいましたが、エベレストのための主たる装備の開発に要する機材や素材の開発はそのまま継続しました。住友軽金属や武庫川女子大の故安田先生を中心とするテントや衣服の開発は、長い時間をかけて続けられ、その主体が関西にあったため、このプロジェクトを担当する東京のメンバーもしばしば関西を訪れておりました。再び登山が解禁となった1969年に偵察隊を出し、南壁登攀の可能性を探りました。この偵察隊からの情報をもとに装備等に改良が加えられ、1970年の本隊に備えることができました。私が頂上まで着用したヘルメット式酸素呼吸器やマスク等は画期的なもので、日本国内で関係者以外は無関心でしたが、むしろ海外での評価が高く文献にも紹介されるほどでした。この折に和田豊司君が改良を加え開発したバルーン付きのマスクは、その後多くの日本隊の8,000m峰に貢献しました。ロシア製の良い酸素器具が紹介されるとすぐさま吾も吾もと移行する傾向は、国産品を進化させる立場から考えるとあまり誉めたものではありません。私は同じ年のポスト・モンスーン期に同志社大学隊が計画していたダウラギリ主峰に参加したかったのですが、エベレストへの道を選ぶことになりました。同じ酸素機器の開発を手伝ってくれた和田豊司君と川田哲二君はダウラギリに参加し、見事に成功をもたらしてくれました。

もう一つは、2001年7月11日、大塚会長より理事会に提案された「日本山岳会100周年記念事業企画プロジェクト」のリーダーを押し付けられたような形で任せられ、村井副会長や西村、今村、高原各理事の良きメンバーとともに推進することになりました。エベレストの時と同様、企画委員の責任者になれば最後まで全うしなければならないことは承知のはずだったのですが……。結局副会長となり、記念事業実行委員長を務め2006年の終わりまで続けました。日本山岳会には隠れた人材の多いことを改めて知りました。日本唯一のクラブとして、100年を迎える伝統の重さということに尽きると考えながらも、高い見識を持ち、何事にも動じない立派な方々が100周年を待たずに去っていった事は、残念と言わざるを得ない心境でした。

100周年記念事業については皆さんもご存知のことばかりではありますが、私の記憶に新しく今後の山岳会のあり方に重要な示唆を与えている項目について述べておきたいと思います。

実施された100周年記念フォーラム委員会のシンポジウム「日本山岳会のこれからを考える」第1回、並びに第2回は、大変内容の充実したものでした。委員長の朴元さんはもとより、重廣恒夫(現関西支部長)コーディネーターのシンポジウムにける期待と、その中から山岳会のあり方を見出そうとする姿には深い感銘を受けました。いろいろな提案がなされ参考になることも多かったと思いますが、中には日本山岳会に将来はないなどの厳しい意見もありました。様々な指摘の中からは解決策に乏しく理想と現実の狭間でゆれるベテラン達の姿も垣間見る事ができました。山岳会に何を求めようとしているのか明確な答えを見出す事は未だ出来ておりません。私の後ろで何ページにも亘ってメモを取られていた皇太子殿下の姿がことのほか印象的でした。時代の変化の中で自らの夢を描き実現する事が困難となった若い世代と、未踏に挑む気概をもって行動してきた熟年の世代間断裂のようなものを感じ取っていた出席者が多かったのではないかと思います。山を志す若い世代が少ないということは、社会の成熟度が貧弱であると言う事になるのでしょうか、私がヨーロッパにいた頃の社会と若者との関係は、今の日本と著しく違うものでした。

100周年事業も一段落した2006年6月の理事会で支部化促進委員会の委員長をすることになりました。私が基本として掲げた理念は、「止まり木のない会員はあってはならない、首都圏を支部化することが重要である」と考えておりましたから、その一助として渡邊理事や篠崎理事の協力で、周辺の栃木、茨城、千葉の3支部を発足させる事ができました。このことは、それ以降の理事に引き継がれ3支部が発足する等、現在も継続中であることは皆様も周知のとおりです。以前より主張していた、支部を8ブロック程度に分割し、ブロックの中から若手の理事を選出し、常任理事は立地条件を勘案し首都圏から選出する事により山岳会の組織体質を刷新し、支部またはブロック中心で全てのことが決定できることが望ましいと考えたからです。支部長に大きな権限を託さない限り刷新は困難と考えるからであります。

100周年記念事業の一番重要な事項は、「全員参加をモットーとする」という方針でした。その顕著な実例として、中央分水嶺踏査の提案がなされましたが、これはきわめて立派な提案でありました。北海道から九州に至る

鳴彩橋を渡るとモニュメントのある公園で準備体操を済ませ、霊場道の階段を上ると落ち葉の敷きつめられた緩い山道を15分ほどで金剛池の駐車場に着く。「五峰山光明寺」の石柱が立てられている。五峰山は昔から播磨高野といわれ真言宗の七十七名刹のひとつと教えられている。さらに15分で光明寺駐車場に着く。眼科に東播磨平野が一望できる。「五峰山光明寺」の参道は文学の山らしく多くの短歌、俳句、川柳の句碑が建立されている。境内の石門から本堂までの参道は急な坂道で、常緑高木のアラカシやシイノキが茂っている。右手に如来坐像が安置されている遍照院を左へ曲がって大慈院から5分ほどで見晴台へ。南に遠く六甲、眼下に滝野、清水加古川の鮎の名所で有名な闘竜灘が光って眺めがよい。

休憩後、本堂へ向かう。杉木立の道を歩いて仁王門を潜り本堂に着く。鎌倉時代の建築様式を伝えている光明寺にお参りしてから光明寺合戦本陣跡に立ち寄る。南北朝時代に激戦が展開されたところで古代の歴史が漂っている。雑木林をぬけ「字五峰山国有林」と書かれた木柱を目印に約5分で二等三角点の五峰山(258.4m)頂上に着き、昼食となる。播州の山を熟知した小林さん“今日の播州は寒いですよ”と話される。風もなく穏やかな陽だまりで記念写真を撮ったりして楽しく過ごす。冬青木(モチノキ)が赤い実をつけていた。

出発して高倉越へ。視界のない急な下りを10分ほどでなだらかな道となり、これより高倉尾根歩きになる。アップダウンの岩尾根を登って角尾山へ向かう。途中、272mのピークは好展望の岩場で庭園のよう。コウヤボウキ、ツツジなど豊かである。いくつものピークを越え「頂上まで200m」の道標からはロープも張ってあり急登。三等三角点の角尾山(343.8m)頂上に到着。笠形山、千ヶ峰、篠ヶ峰の眺めが素晴らしい。西脇の市街も見える。分岐まで戻って引尾山へ。148番鉄塔を通り、下って鞍部へ、登り返す149番鉄塔。さらに登ると四等三角点の引尾山(279.3m)頂上に着く。眺望はない。急坂を下り八王寺池の堰堤に無事下山する。須磨岡さんより地元「八重垣」の絞りを振る舞っていただき、美味しく乾杯し、足取りも軽くJR滝野へ。

【コースタイム】

JR滝野駅09:55—10:35光明寺駐車場—11:16本堂—11:35五峰山(昼食)12:20—12:39高倉越—12:50 P 272—13:21角尾山分岐—13:49角尾山14:10—14:30分岐—14:49引尾山—15:24八王寺池—16:13JR滝野

【参加者】

須磨岡輯 山内幸子 新井浩 岩崎しのぶ 浦上芳啓

大塚宏圀 大塚和子 金井健二 清瀬祐司 阪下幸一
 阪下悦子 戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 野村哲夫
 松上美代子 宗實二郎 宗實慶子 森沢義信 (会友)魚
 津清和 岐部明弘 中野峯子 (会員外)浅田博三 新井
 幹子 蓮川博凡 森口藤代 守田チヨ子 大和紘 小林
 優子 計29名

支部山行12-65・66 4000山グランプリ35
白猪山～高須ノ峰
 佐藤信治郎

2月9日(土)晴

松阪駅前に集結。予約したジャンボタクシーにて白猪山登山口に向かう。快晴なれど低温注意報が発令され非常に寒い。夏明登山口に到着。

入念なストレッチをして、コンクリートで固められた作業道を登る。最初から急登が続く。不動小屋に到着、「白猪石尊」と書いてあるが中には何も無い。まだまだ急登が続く。小雪がちらつきキラキラ輝いている。ほどなく石尊大権現到着。立派なお社が建っていた。作業道と思っていたがここへの参詣者のための道だろう。こんな急傾斜の道を登ってお参りに来られるのは大変だろう。信仰の力はすごいと思う。



三等三角点御在覽場にて 写真提供・重廣恒夫

この先に展望広場があり麓が見渡せた。ここから最後の急登を頑張って白猪山山頂(819.7m)に到着した。辺りの樹木が刈り払われて360度の大展望が広がっている。北に堀坂山、観音岳が見渡せる。少し下って日だまりで昼食。そばに立派な木造の展望テラスが有るが老朽化で注意と表示されていた。昼食後、高須ノ峰に向かう。地形図には登山道の表示がなかったのでヤブ漕ぎを覚悟していたが、手入れされた杉や檜の植林帯の中に立派な道が付いていた。ホッとしたのかガッカリしたのかビミョ

うだ。一旦下ってコブを三つ越してP810に到着。「高野山」の表示板があった。約90m下って神路山集落から柏原への峠越えの道に出た。ここで北に下って沢の源頭へ水を汲みに行く。水で重くなった荷物を担いでこの先の急登は大変だった。

15時過ぎにP802.4到着。三角点「御在覧場」があった。予定ではここで幕営だったが時間も早いのでもう少し先に行く事になり、風の当たらない平坦地でテントを張る事になった。

夕食には馬刺し・高野豆腐・豚キムチ等が出てきて盛り上がった。1日の終わりの宴が一番の楽しみだ。稜線では一晩中強風が吹き荒れていた。

2月10日(日)晴

4時30分起床、6時前に出発。ヘッドランプを点けて歩き出す。程なく東の空が紅に染まり今日も好天が予想されるが寒い。小さなアップダウンを繰り返し西に向かう。最後は痩せ尾根の急登をよじ登ってホッとしたらまだまだ急登が待っていた。それでも予定より1時間早く高須ノ峰山頂に到着した。三角点があったが木立の中で余り展望は利かない。木立の間から西に局ヶ岳の綺麗な円錐形が見えた。小休止の後、下山にかかる。山頂直下の小さな尾根を南下する。急坂で地獄の下りとなった。どんどん下って途中の小休止でやっと一息つき、沢に出て一安心。工事用の林道跡に出てようやく急坂から解放された。舗装された林道の終点に到着して今回の山行は終了した。予約してあったジャンボタクシーがチラッと見えたが目の前でUターンして戻っていった。CLがタクシー会社に連絡されたが取り敢えず集落まで歩くことになった。10分ほどで神名原集落の端に到着、ここでタクシーを待つ。ここまで下ってくると気温も高く快晴で春のようだった。荷物の整理をしている間にタクシーが来て松阪に向かう。

駅前の居酒屋で無事下山の乾杯をして今回の山行を締めくくった。

【コースタイム】

9日 松阪駅09:23(タクシー) 09:58夏明登山口10:22—10:55不動小屋11:05—11:47石尊大権現—12:05白猪山12:40—13:38P81013:45—13:55柏原・神路山分岐14:24—15:05P802.415:10—15:35テントサイト

10日 テントサイト05:55—08:22高須ノ峰08:48—10:00林道終点—10:15神名原集落10:28(タクシー)11:09松阪駅

【参加者】

重廣恒夫 橋本圭之輔 秋枝秀實 村田かおり (会員外)松仲史朗 佐藤信次郎 計6名

支部山行12-75 ゆるやか山行北摂・北山を歩く21 近江富士(三上山)から妙光寺山

大西 保

3月21日(木)晴

集合地のJR野洲駅に到着するのに我家から2時間半かかり、『ゆるやか山行』の名前からほど遠く早くも疲労感漂う、新人は今日もまたリーダーにしごかれる覚悟をしつつ、国道8号線の歩道を歩きだした。最初の目的地三上山は、学生時代には夜行列車『ちくま号』の車窓から見た記憶はない。社会人になって名神高速自動車道から左に見える琵琶湖はいつも素敵で、右に見える富士似のこの山の記憶はなかった。何となく山名と歴史だけは覚えたのは、内田嘉弘著『京都滋賀南部の山』で、氏も今回は参加されているので、愉しみ倍増である。

先ず三上山をご神体とする御上神社で安全祈願をする。リーダー言われたので、「くれぐれも本日こそ名の如くゆるやか山行でありますように」と祈願した。三上山は標高432m、周辺地図は駅で配布されている親切丁寧な『登山マップ』をしっかりと手にして出発。妙見道跡の登山案内板も熟読して登りにかかる。割岩という直登ルートに一汗かいて、頂上の天之御影命が山頂に降臨した伝説の社殿で大休止。西に琵琶湖、比叡から比良の湖西の山並み、東には遠く奥美濃、近江湖北の山々を久しぶりに観た。狭い頂上には老若男女が占領していたが期待の山ガールは我がパーティの若干名のみであった。



三上山展望台にて 写真提供・大西保

下山は東に急斜面の下降から北尾根縦走路に入る。東光寺越、びわ峠から石舞台のような岩トンネルをくぐり東光寺山(246m)、東光寺不動山(270m)と通過して、林の中の妙光寺山(267m)で一休みした。北に下ると岩神大龍神の岩窟とすぐ横の雑木林の中に6~7mの巨岩の刻まれた妙光寺山麿崖仏に出る。案内板には700年前、

高さ7mの地藏菩薩立像とあったが、近江には多くの磨崖仏があるらしい。時間を作って周辺を全て見るトレックに出てみようと思ったぐらい素晴らしいものだった。圧巻は福林寺跡の小さな磨崖仏群に立ち寄り、ますます興味が深まった。

周辺の寺名が付けられた山々、石仏参拝も加わって誠に結構な近江巡礼の山旅だったが、ちょっとハードな里山歩きでもあった。それに野洲駅で楽しい仲間と会話、野洲駅近くでの才媛の誕生祝いを兼ねた一献に次回も参加せねば修まらない。

【コースタイム】

JR 野洲駅09:20—三上山山頂12:00—14:01北尾根・東光寺山—15:02妙光寺山磨崖仏—16:10JR 野洲駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本政子 岩崎しのぶ
内田嘉弘 内田昌子 大西保 金井健二 中谷絹子 戸島泰三郎 平井一正 松波幹夫 森沢義信 (会友)魚津清和 岐部明弘 黒岩敦子 中野峯子、蓮川博凡、横山規江 中川富夫 中田栄 (会員外)浅田博三 新井幹子 井上直美 大西純子 中村淳 計27名

支部山行12-再62・63 4000山グランプリ34-2
瓢ヶ岳～高賀山～今淵ヶ岳縦走
重廣恒夫

3月23日(土)晴

前夜に岐阜まで入り、美濃太田駅を経て美濃市駅に到着した。1月末に続き2度目の駅頭に降り立つが、前回の大雪と違い春の息吹が感じられる。タクシーは、5人とトランクが閉め切れない程の荷物を積んでいるので、瓢ヶ岳登山口までの林道を喘ぎながら登る。トイレの完備した駐車場で準備体操し、登山道に足を踏み入れる。独りの登山者が先行している。2度ほど小さな沢を涉って植林地の中を進む。しばらくして骨ヶ平に到着。空身で南岳を往復することにしてザックをデポして笹原に残雪の残る登山道を進むと片知山からの単独行者に会った。南岳を往復した後、瓢ヶ岳の登りにかかる。歩き易い登山道を1.5km程歩き最後の一登りで瓢ヶ岳の頂上に到着した。頂上からの展望は気温があがり過ぎて遠望がきかないのは残念だが、それでも堂々とした高賀山は良く見える。

昼食の後、関市から来たという2人の女性も加わって記念写真を撮る。バードウォッチャーらしく胸に双眼鏡がぶら下がっている。眺望の良い時にまた登って下さい

という声を背中に受けて奥瓢ヶ岳に向かう。ここ数日で大幅に雪が融けたようで、ブログから想定した雪の稜線ではなく水溜りの登山道を歩くことになった。奥瓢ヶ岳からは新しくつけられた登山道を下って中美濃林道の登山口に降り立った。当初の予定では林道を南西に下った峠でテントを張る予定であったが、時間も早いので高賀山を往復することにした。ところどころ雪の残る林道を歩き、御坂峠を経て高賀山の山頂に到着した。1月末には大量降雪に悩まされた登山道も今日は楽々である。頂上からの展望は今ひとつであったが、一等三角点を今回は見ることができた。帰路は林道脇に頭を出したフキノトウを摘みながらのんびりと歩く。もちろん夕食の一品になったことは言うまでもない。

3月24日(日)晴

広い駐車場のキャンプサイトから早朝の中美濃林道を峠まで歩く。峠から908.3mまでは路がついていたが、それ以降の稜線はお決まりの藪漕ぎとなった。しかし藪はそんなに濃くなく緩やかな傾斜の境界線を辿って予定より1時間ほど早く今淵ヶ岳に到着した。時間帯が早いのか山頂には登山者の姿はない。展望もないので小休止の後、滝神社への登山道を下る。雑木林につけられた登山道は登るのには苦勞する急斜面である。鉄塔の広場を過ぎ登山口へと下った。途中で2人の登山者に会った。下山中にタクシーの予約ができたので、滝神社で整理体操中にタクシーがやってきた。美濃市駅では到着直後の電車か2時間後の電車しかなかったので躊躇なく後発の電車に決め、昼ごはんが食べられそうな食堂を探す。一軒目の食堂は取り込んでいたので、二軒目の食堂に入ったがこれが大当たり。美濃市名物豚ホルモン焼き「とんちゃん」を供する有名な店であった。ビールにぴったりの香ばしい「とんちゃん焼き」を堪能した。店を出るとロードレーサー族が列をなしていた。帰路、美濃太田駅からの特急電車が事故で2時間遅れるというハプニングのおまけまでついた山行であった。

【コースタイム】

23日 瓢ヶ岳登山口08:55—09:13岩屋不動尊分岐—10:11骨ヶ平—10:36南岳—11:29瓢ヶ岳—12:15奥瓢ヶ岳—12:36宮奥分岐—12:56中美濃林道登山口—14:05御坂峠—14:47高賀山—16:30駐車場キャンプ地

24日 キャンプ地05:20—05:50中美濃林道峠—06:13P908.3—07:39境界分岐南ピーク—08:45今淵ヶ岳—09:50P661—10:32登山口—10:36滝神社

【参加者】

重廣恒夫 村田かおり 橋本圭之輔 (会員外)佐藤信治

支部山行 13-1 ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる 1
武庫川堤お花見ウオークと有馬富士

森沢義信

4月11日(木)

JR三田駅から三田大橋に歩く。京都の桜守・佐野藤右衛門翁は「サクラの満開は一日しかない」と何かに書いている。満開でなければ葉サクラも同じだという。武庫川堤のサクラは盛りを過ぎているが、5,100本の並木はなかなか壮観だ。坂井知事時代に瀬戸内海から日本海に到るサクラ街道が計画された。武庫川のサクラ並木はその一部であると浦上さんの説明。

新三田駅の北側で堤が大きく蛇行して右手に有馬富士が姿を現す。三田駅から新三田駅まで一駅分武庫川堤を歩いた勘定だ。

国道を渡ると旧篠山街道に出る。戦前まで西国観音霊場の中山寺から播州清水寺に向かう巡礼で賑わった道だ。辻には三田駅の東にある三輪神社の御旅所がある。

青龍寺を過ぎると道が細くなり八幡神社に寄り道して谷に入る。この辺りにはウワミズサクラが多いという。春の花や蕾、葉芽などが間近に観察できるので久保リーダーの説明を聞きながら有馬富士公園に入る。この公園は有馬富士(374m)とその裾野の70万平米を整備した県立の都市公園である。施設も充実し手入れも行き届いている。今回は裏口から入園。福島大池に沿って園路を進み高台のかやぶき民家で休憩。そして正午丁度に到着した芝生広場で昼食をとる。



有馬富士山頂にて 写真提供・森沢義信

武庫川からずっと舗装路を歩いてきたが有馬富士登山口からようやく地道に変わる。ゆるやかな山腹の登りでそのまま頂上に到達と思いきや、突然岩場が現れ露岩の上の急登に変わる。「わんぱく砦」と公園マップにあるが、いやはや年寄りにはこたえた。

頂上で休憩のあと車道に下りコバノミツバが群生する尾根ルートに寄り道をする。小葉のツツジが尾根の遊歩道にそって一斉に淡紫色の花をつけている。見事だ。もうすぐ新緑も楽しめそうである。

ルートを変えて福島大池の北端に出る。ここでは火山の名残りの巨大な流紋岩の一枚岩が堤の一部となっている。少し坂を登り築山広場を経て公園の正面入口に当たるパークセンターでコーヒータム。広い側道のある県道を歩いて新三田駅まで歩き解散した。

【コースタイム】

JR三田駅09:39—10:06川除上橋10:07—10:42三輪神社御旅所10:49—11:03八幡宮11:04—11:22福島大池11:22—11:32かやぶき民家11:43—12:00芝生広場12:31—12:38有馬富士登山口12:38—12:58有馬富士13:15—13:38ツツジ尾根折り返し点13:39—14:20流紋岩14:25—14:40パークセンター14:54—15:22JR新三田駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 浦上芳啓 金井健二 戸島泰三郎
中島隆 橋本圭之輔 平井一正 廣瀬健三 松波幹夫
松村文子 宗實慶子 森沢義信 (会友)魚津清和 岐部明弘
黒岩敦子 小林三喜男 中川富夫 中田栄 横山規江 (会員外)井上直美 計21名

支部山行13-2 関西支部県境縦走4
三国山～向坂～庄

松村文子

4月20日(土)曇後雨

予報では午後は雨…。空模様を気にしながら前回の下山地養鶏場へ急ぐ。準備運動後出発。10分程で前回の縦走離脱地点P406に到達する。11時13分に四等三角点・三国(431.7m)に到着。辺りは広い台地状。回りは杉、桧の植林と落葉樹林が入り混じっている。道は間違いなく歩きやすい。雨を気にしてか、いつもよりペースが速い。落葉樹林の新緑が目にも優しく明るい。三角点を過ぎて林道に出ると、オフロードバイクの跡が溝のように掘られていてとても歩みにくい。所々でミツバツツジ、シハイスマレなどの花が目につき新緑と共に美しくうっとりとする。やがて大きな鉄塔の下で昼食。

ここから30分程歩くと県境に立派な石積みのドーム(図根点)があった。さらに進んで台地状の広い山頂四等三角点・向坂(382.5m)に至る。14時過ぎ三等三角点・小日山(347.9m)に着く。回りは桧の林で間伐した直後だった。道は良好。どんどん進める。風倒木林を左手に

見る。風になぎ倒された木々が痛々しい。又、ビニールの紐で囲まれた松茸林を通過した。気になっていた雨がポツポツし始める。白滝牧場を左側に見ながら、北西方向に進み15時30分、県境を離脱する。

別所を下る途中、所々に山桜が咲いていた。別所橋の袂で今日の宿、笹ヶ丘荘のマイクロバスに乗った。雨はだんだん本降りになってきた。



鉄塔の下での昼食も終わり 写真提供・重廣恒夫

4月21日(日)晴

気になっていた雨は夜間降ったらしく我々には好都合であった。7時30分宿の車で出発。別所橋のたもとまで送ってもらう。準備運動後出発。道の脇の春の花々を楽しみながら昨日の県境離脱地点へ復帰。

緩やかな起伏の道を上下しながら万能トンネル上を通過して萬の峠(ばんのたわ)へ。ここは昔の出雲街道が通っていた。所々「姫路へ15里」の標識があった。峠から登って行くと前方に広い台地と樹間に点々と家が見える。萬の台の別荘地だ。この台地の高みを目指して舗装道路を歩く。造成地の端の最高地点で地図上の三角点(四等・萬の台255.3m)を30分程探したが見つからず、あきらめて写真を撮り別荘地に出る。広い道を横断する。高低差の少ない道は藪もなく歩きやすい。蓮花寺近くの集落を左手に見ながら二等三角点・庄ノ上山380.1m(点名・宇根)に至る。ここで昼食。

西に向きを変えた道はなだらかに下り中国自然歩道に出会う。図根点P321を通過。県境はこの先で盲腸の様に東に飛び出している。自然歩道の方は真っ直ぐで距離にして300m程。かたや県境は5倍程の距離。我々は忠実に県境を歩いた。杉坂峠に14時30分着。大きな看板が立ち鎌倉時代に杉坂の関所があったことを知る。道は京より出雲に通じていた。ここは中国自動車道のトンネルの上にあたる。ここから5分で杉坂峠(自動車道)に出る。

今回のコースは道がよく、予定終了地点よりかなり先

を歩いているが、時間もまだ早いので次の峠まで歩くことに決定。小休止の後いきなりの急登、標高差約60mを頑張ると緩やかな丘状となる。次の三角点328.3mは鹿よけネットの中で確認できなかった。皆田への分岐で県境を離脱。林道を歩き皆田に下山する。昨夜の宿、笹ヶ丘荘の車を待つ間、麓の町の広場で行われていた獅子舞を楽しませて戴いた。頼んでいたマイクロバスで上月駅まで送ってもらった。

【コースタイム】

20日 養鶏場10:13—10:30 P 406 (県境縦走復帰点)—11:13三国11:23—11:37大鉄塔(昼食) 12:05—12:59向坂13:10—14:10小日山14:27—15:00白滝牧場—15:30縦走路離脱—16:00別所橋

21日 別所橋07:50—08:04縦走路復帰—08:50万能トンネル—09:30萬の台—11:41庄ノ上山(昼食) 12:15—12:55中国自然歩道合流—14:30杉坂峠—14:41 P 328.3—16:00皆田分岐(縦走路離脱点)—16:25皆田

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 清瀬祐司 橋本圭之輔
前田正彰 松村文子 宗實二郎 村田かおり 山本義博
(会友)黒岩敦子 魚津清和[20日のみ] (会員外)稲葉淳一 大和紘 20日 計14名 21日 計13名

支部山行13-3 4000山グランプリ ショウガ山～三村山

黒田記代

4月27日(土)晴

深瀬大橋を過ぎた辺りで車止めがあり、タクシーを降る。雨が降っている。しばらく舗装道路を歩く。小嵐山登山口からいきなりの急登である。細い沢状で足元が崩れそうな急坂を登る。雨も降っており、足元が崩れそうな急坂が続くので、前と後でアンザイレンし、中2人はカラビナスルーで稜線に上がるまでの急斜面を登る。

稜線に上がった頃には小雨となり、ロープもはずし、灌木帯の藪の中を進み、小嵐山に到着する。小嵐山を示す物は何もない。平坦な場所を探し、テントサイトとする。ここまで、溶け残り雪が所々にあるのみ。この残り雪を取って水作りをする。

4月28日(日)晴

テントサイトまで雪はまったくなかったが、歩き始めてすぐに雪たっぷりの稜線となる。天気良く、日焼け雪焼けが気になるほど日差しが強い。誰も歩いていない雪の稜線を気持ちよく歩き、ショウガ山に到着する。「シ

「ヨウガ山1623.5m」のプレートが三角点の手前の木にあった。三角点は雪の下で目視出来ない。GPSでこの辺りと決めて、記録写真を撮る。



ショウガ山に向かって 写真提供・重廣恒夫

さらに広い雪の稜線をたどり大辻山に到る。またしても「大辻山1436.2m」のプレートが三角点位置よりかなり手前にあった。雪の下で目視出来ないの、GPSで三角点の場所を決めて記録写真を撮る。

テントサイト予定地よりかなり手前だが、テント場に最適な所に到り、そろそろ17時になろうとしていたので、テントサイトに決める。広い平坦な雪原で、夕日に赤く染まる海が見え、最高のロケーションであった。

4月29日(月)晴

ロープを着けて歩き始める。今日も良い天気である。かなり急な雪面を下ったり上ったりで三村山に到着する。

いよいよ下山にかかる。雪はザクザクで急斜面でもスムーズに下山。やがて雪面もとぎれとぎれとなり、岩肌が見えるようになる。歩き易い雪面を探して進むが、雪面の状況が悪くなり、懸垂下降で下の歩き易そうな雪面に降りることにする。三人が懸垂下降を終え、最後の一人がロープをセットしようとしていた時、頭上から雪崩発生。一人が雪崩に巻き込まれ流された。幸いなことに、小規模な雪崩で本流に巻き込まれなかったため、体の右半分が雪に埋まった状態で止まり、大事には至らなかった。残りの三人は流されなかったものの、頭の上から雪崩の雪をかぶり、腰辺りまで雪に埋まった人もいた。

その後、態勢を立て直して近くを通っている林道に出て、計画通り雪のないスキー場を下り、瀬女バス停に出て、タクシーで小松駅に向かった。

【コースタイム】

27日 小松駅＝深瀬大橋10:48—11:47小嵐山登山口—16:27小嵐山—16:33テントサイト

28日 テントサイト05:00—11:30ショウガ山—15:33大辻

山—17:05テントサイト

29日 テントサイト05:00—08:14三村山—12:26 Gondola山頂駅—14:17瀬女バス停＝小松駅

【参加者】

重廣恒夫、橋本圭之輔、山内幸子、黒田記代 計4名

支部山行13-4 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる2

法隆寺から松尾山(矢田丘陵)

中田 榮

5月9日(木)

JR法隆寺駅に集合し、閑静な斑鳩住宅街を抜け、法隆寺の土堀沿いに本日のコース晴天の矢田丘陵に向かう。

斑鳩神社にて点呼後、ゴルフプレイを横目に見ながら、法隆寺カントリーを縦断し若草山、東大寺が遠望できる車道にでる。七曲道入り口で、今年最高の気温の為、水分補給休憩。

新緑の木漏れ日の中の登山道を、毛虫を除けながら山行開始。シャラの咲く山門に到着。松尾寺参拝と、五月晴れの奈良盆地を眺望。境内を避け駐車場にて毛虫も気にせず、待ちに待った楽しい昼食。

13時松尾山神社をあとにし、松尾山山頂のNHK鉄塔横の松尾山二等三角点にて、記念撮影。国見台到着後、だらだらと矢田丘陵の尾根道を北上し、矢田峠に着く。展望台から生駒山を望むも、周囲の樹木生長にて視界はいまひとつ。小笹の辻で小休憩後、檜の木峠から国道308号線を西へ下る。途中住宅街をショートカットして、ほぼ予定通り南生駒駅に無事到着。

新緑に癒された、春満喫の里山探訪でした。



松尾山山頂にて 写真提供・中島隆

【コースタイム】

斑鳩神社10:48—11:38七曲道入口—12:00松尾寺—12:15松尾神社—13:00登山口—13:10NHK鉄塔—13:35国見台—

14:17矢田峠—14:30展望台—14:43小笹の辻—15:09檜の木峠—15:43南生駒

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本正子 井関正浩 内田嘉弘 内田昌子 金井健二 戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 秦康夫 平井一正 松波幹夫 宗實慶子 (会友) 岐部明弘 黒岩敦子 中川富夫 中田榮 中野峰子 横山規江 (会員外)新井幹子 井上直美 計23名

**支部山行13-5 4000山グランプリ
取立山～大長山～赤兎山**

辻 和雄

5月11日(土)雨

福井駅より「えちぜん鉄道」で勝山駅へ、タクシーにて取立山登山口に到着する。朝からあいにくの雨で、晴れていれば取立山の水芭蕉を見る登山客で賑わっているはずであるが、今朝は我々だけである。

今年は残雪が多く、当初予定していた「大滝」経路の道は通行禁止のため直接、取立山へ向かう。途中から残雪が現れる。モクレン、スマレ、イワウチワやショウジョウバカマを見ながら雨の中を黙々と歩き取立山三等三角点に到着する。取立山頂はその先にある。記念撮影の後、取立山避難小屋を経由し、こつぶり山を往復する。晴れていれば白山が大きく見えるはずだが、雨とガスで見えない。残雪と雨で水芭蕉を探すゆとりがない。

再び取立山避難小屋へ戻り、縦走に入る。P1339、P1383と越え、P1549を越した所で予定より1時間早くテント設営とする。稜線の灌木帯横の雪原を均し、雨の中を急いでテントを設営し、バーナーにより暖を取る。水は雪を溶かして採取する。

一息ついた所で、各々のテントサイトから趣向を凝らした差入れが回ってくる。いつもながらであるが、各々の秘匿品をザックに忍ばせて持参し手早く調理するこのマメさには脱帽である(小生のように食事は腹が膨れればOKで、酒のアテは乾きもので手早く済ます輩としてはいつも感心する)。

5月12日(日)晴

昨夜は、生乾きの衣服と寒さにより余り眠れなかったが、昨日の雨が上がった事もあり、出発時点では快調となる。今日は大長山への登りがあるのでハーネスを装着して出発する。

テントサイトから一度下ってから核心部の大長山の登りとなる。アンザイレンして急斜面に向かう。灌木帯に

アイゼンを取られ、時間を食う。アイゼンが外れる人も出たり、停滞中のビレイ確保が不十分であったり、反省すべき点が目立った。登りきった大長山(二等三角点1671m)は360度の展望が待っていた。快晴の中に白山が眼前に聳えている。白山に登った時以外にこれ程近くから眺めるのは初めてだ。越前及び飛騨の山々が一望できる。



大長山を越えて 写真提供・重廣恒夫

大長山からの下りには岩場があり慎重に下る。痩せ尾根が続きP1530及びP1505を越し、小原峠に到着する。

小原峠にて小休止の後、荷物をデポし、アタックザックにて赤兎山に向かう。頂上(三等三角点1628m)は、これまた360度の展望であり、山頂の西側には山名を表したプレートがあったが、東側はプレート台のみ残っていた。取立山からの縦走路を目で追いながら、皆で歓声を上げる。東側に赤兎避難小屋が見える。

赤兎山から小原峠に戻り、小原林道の登山口に向けて下山する。雪にできたシュルンドに注意しながら下り、赤兎山・大長山登山口の林道に出る。残念ながら残雪のため林道は車が通行禁止となっており、林道ゲートまで延々2時間30分の行程が待っていた。

【コースタイム】

11日 取立山登山口08:25—10:16取立山三角点—10:21取立山避難小屋—11:37こつぶり山—12:43P1339—13:27P1383—15:10P1549—15:32テントサイト

12日 テントサイト04:47—08:09大長山—09:18P1530—09:58P1505—10:26小原峠—11:52赤兎山—13:44赤兎山・大長山登山口—16:29小原林道ゲート

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 久保和恵 黒田記代 辻和雄 村田かおり 橋本圭之輔 (会員外)佐藤信次郎 松仲史朗 計9名

支部山行13-6 丹生山系・屏風谷源流から東の峰

阪下幸一

5月18日(土)

天気恵まれて爽やかな5月の山を楽しみました。

大池駅から国道を横切り大池聖天に前を通り、太陽と緑の道に入り、天下辻の峠に出て休憩。この稜線の道は丹生山系縦走路で登山者だけでなくバイクのモトクロスも利用している。北へ荒れた谷を下り屏風谷に出る。ここは三差路で黒甲東道が谷を横切り左岸山腹に上がっているが、今回は晴天が続いた為、水量の少ない源流を歩く。飛び石歩きや渡渉を何度も繰り返す、谷の淵には小魚もいて楽しめる。右股に入り黒甲越えの辻に出るとバイクの団体に出会う。少し進むと四輪駆動の車が岩の出っ張った道をトライしていた。いずれも音は喧しいが礼儀はよく登山者には道を譲ってくれる。兵庫ゴルフ場の道に入り金剛童子山の南辺りから柏尾谷池に下って昼食。

水草の間を魚が群れ、水面を渡る風は気持ちがいい。鯉らしい大きな魚もいた。柏尾谷への道を見送り東の峰に向かう。ここからの道はピークを2つ巻いて雑木林の中のかすかな踏み跡を辿る為、2回ばかり徘徊し谷の源頭部に下り、モミの木の巨木に出て境界の石柱から尾根に沿って登り東の峰(北峰516m)に出る。三角点も見通しもなく「東の峰」と書いた標識のみある。頂上直下に役の行者を祀った石の祠があり法螺貝と青銅の神具が置かれていた。祠の前から双耳峰の南峰に行く。峠を挟んで登ると南峰の頂上。

ここにも「東の峰」の標識があった、北峰よりは見晴らしがよく北神戸の団地越しに菊水山から再度山の山並みが見える。箕谷から見上げた場合は南峰が東の峰で登山者は普通、北峰のみ登るらしい。南峰より青葉台に下る道は岩場で未整備の為、下見で難儀したので峠まで引返し柏尾谷にそった南尾根を下る。青葉台の水道設備から住宅地に出る。

箕谷口に出て三宮行きのバスに乗る。トンネルで新神戸駅に出る為、時間も早く帰れた。

【コースタイム】

神鉄大池駅09:30—10:00天下辻—10:30屏風谷—11:30黒甲越え道—12:00柏尾谷池12:30—13:30東の峰(北峰)—13:50南峰—14:30青葉台登山口—14:55箕谷口

【参加者】

宗實慶子 阪下幸一 阪下悦子

計3名

支部山行13-7 関西支部県境縦走5 桜山～住中峠～蜂谷坂

黒岩敦子

5月25日(土)晴

集合の佐用駅前から送迎バスに乗ろうとすると車内から支部長と運転手さんの大きな声が聞こえて驚く。ヒートアップしている運転手さんはドアを開けたまま発進。不安を感じたが皆田の集落に無事到着。県境復帰点目指し歩き出す。厳しい暑さに、杉や檜の混合林での日陰や風は嬉しく、ほっと一息。やがて佐用町の地籍図根三角点を見つける。農道整備事業の記念碑の先で中国自然歩道の標識もある県道を横断して岡山県へ。きれいに整備されたグランドゴルフ場が現れ、側にあった東屋で一休み。地形図に△が表記されているのに『基準点評価一覧』に記載されていない三角点を探しに一段高い藪の中へ。“あるかどうか分からないので全員来なくてよい”と支部長に言われ、待つこと暫し。“あったあ！”と黒田さんの声で後続の数名は現場に向かう。私は廃点となった三等三角点にタッチできず残念！武蔵焼の登り窯のある集落から林道へ。林道終点広場で昼食。午後にも地籍図根三角点を見つける。自然林の中、落ち葉を踏みしめ、倒木を避けながら歩き、兵庫県佐用町と岡山県美作市と表示のある県道熊井峠に降り立つとお地藏さんが迎えてくれた。その後、ロープが張り巡らされて歩きにくい松茸山からP311へ。ゆるやかながら登り下りを繰り返し三等三角点・桜山(399.1m)へ。急坂を下ってから目の前の住中ピークへ。今日一番の歩き応えで大汗をかく。そして一気に下ると人家が見え、住中峠に。朝とは違っていい人になっていた運転手さんお迎えのバスで廃校跡地に建設された宿舎へ。

5月26日(日)晴



二等三角点豊福にて 写真提供・重廣恒夫

宿舎からのバスで、住中峠に。天気には感謝だが今日も暑そう！県道を進んで笹藪から県境尾根を進むとご詠歌の刻まれた石仏三体に出会う。そして新設と思われる地籍図根三角点がP335を挟んで二つあった。国土地理院の三角点と違って山を歩いても今まで見ることが少なかった地籍図根三角点を昨日から四つ見た事になる。今朝、バスを降りて地籍調査実施中ののぼりを見たが、歩きやすい道だったことと併せて納得する。登り下りを繰り返し、大きく削りとられて痛みの激しい二等三角点・豊福に到着。休憩後の尾根歩きでは吹き抜ける風に癒される。進路上にある牧場の臭いを避け、P489で早めにゆっくりの昼食。広大な牧場をぐるり一周するように歩いて深く埋もれた四等三角点・陰(471.6m)に到着。途中県境の杭を見ながら釜坂峠に下りると立派な因幡街道鎌坂峠「お通茶屋」があった。脇には地藏尊が祀られてあり、中に書かれていた峠の由来に歴史を感じる。予定より少し先のP400に登り、蜂谷坂に下りて今回は終了。迎えのバスで大原駅に。

【コースタイム】

25日 皆田09:58—10:20県境復帰点—11:24点名なし△342.3—13:35P311—14:51桜山—15:38住中ピーク—16:09住中峠

26日 住中峠07:51—07:55県境取付点—08:34P335—10:32豊福493.3—11:24P489—13:09陰—14:40P400—15:07蜂谷坂

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 新本政子 清瀬祐司 阪下幸一 橋本圭之輔 前田正彰 松村文子 宗實二郎 村田かおり (会友)黒岩敦子 (会員外)稲葉淳一 大和紘
25日のみ 山内幸子 25日 計14名 26日 計13名

支部山行13-8 わんぱく探検
有馬富士公園(三田市)

茂木完治

6月2日(日)

今まで「孫と一緒にハイキング」ということでやってきたが、孫と一緒にという限られた世代からもっと子供を中心に誰でも来れることにしようということで、今年から「わんぱく探検」という名に変えてすることにした。

私がこの企画を担当するようになって4回目であるが、続ける羽目になったきっかけは紙飛行機である。紙飛行機というのは不思議なものだと思う。子供も楽しめるが大の大人の心をも熱くさせるものがある、つい熱

中してるのは大人の方ということにあいなる。

初回は折り紙の飛行機、2回目は切り紙の飛行機、3回目はまた折り紙でやった。さて4回目となるとちょっと力が入り、前もって葉書で紙飛行機を作って準備した。試行錯誤的に羽根の位置、主翼と尾翼の大きさのバランスを変えていくとそれなりに飛ぶようになり、住んでるマンションの広場でテスト飛行をすると植木の梢にひっかかってしまったほどだったので、広い場所で飛ばせるこの時を心待ちしていたのだ。

さて前置きが長くなったが、予定通りパークセンター前に集合して歩き始めた。子供たちも初めての出会いでお互いちょっと遠慮しながらハイキングを始めた。有馬富士公園は大きな公園で福島大池という池の北に有馬富士374mがちょこんと座っている。池を西から周って、かやぶき民家で一休み。有馬富士山の山麓の道に戻って中腹を東へ行けば芝生の広場に到着。さあ、お昼ごはんを食べたら紙飛行機大会だ。紙飛行機は実は飛ばすのにコツがあるのだ。羽根の調整がうまくいくとよく飛ぶが、しくじるとだめ。飛ばす時に力を入れすぎてもだめ。それで大人も熱が入るのだろう。今日はどんよりと梅雨空で時々ばらばらくる天気。紙もちょっとしんなりして飛行機も元気がないなあ。



写真提供・茂木完治

しばらく広場で遊び、福島大池を東から周って戻る途中で堤防のような斜面の場所があって、そこでも飛ばした。すると知らない子供が3人ほど寄ってきたので、その子たちにも紙飛行機を渡すと、うちらの子供たちと一緒にしばらく飛ばして遊び、おみやげに飛行機をもらって満足そうに別れて行った。「キツネの巣穴」で遊び、最後に行ったのは「あそびの王国」である。ここは猫の頭を模った小山を中心に滑り台、迷路などいろいろな遊び道具が工夫されていて、それはもう子供たちは夢中で駆けずり回っている。大人たちは芝生に座ったりねころんだりして休憩タイム。紙飛行機は結構疲れるのです。飛ばすと必ず拾いに行くというのがついてきて、これが

馬鹿にならない。“もう終わるの～”という子供の楽しいブーイングを聞きながら今回のわんぱく探検も無事終了することができた。お手伝いいただいた方々に感謝いたします。

【参加者】

中島隆 山内幸子 久保和恵 野口恒雄 野口美枝子
野口蒼生(6歳) 河野直子 河野哲 河野百花(8歳)
中西英彦 中西靖子 中西雅空(4歳) 茂木完治

計13名

支部山行13-9 4000山グランプリ 矢頭山～髯山～堀坂山～観音岳

松仲史朗

6月8日(土)晴

近鉄久居駅よりタクシーで矢頭中宮公園向かう。公園内には幹周8mクラスの杉の木がたくさんあり、その中でひときわ目をひく巨木が天然記念物の矢頭の杉である。公園内奥の登山口より静かで心地よい風を受け、整備された林道に入る。右手の波瀬川に小さな滝があり、屋根の付いた登山口の案内標識がある道を進むと不動休憩小屋に到着する。出発から30分後、平成13年12月建立の東屋風の椿小屋があり休憩をとる。この先は傾斜がきつくなり、静かな杉や桧の森を進むと林道出合に到着する。「左尾御峰道」とある小さな苔むした石柱に出会う。木陰が続く険しく急な坂を登り切って大日拝展望台に到着するが展望はない。昼食を終え、途中の清水峠分岐点でサブザックに必要な物だけ詰めて矢頭山に向かう。急登、急降下の尾根道を進み、風尾ヶ岳を通過し、岩場を登ると小広場になっており一気に視界が開けた四等三角点の矢頭山山頂にたどりついた。立派な石の祠があり落葉低木も目立ち、眼下の自然林は様々な緑が美しく、津の市街地と伊勢湾が見渡せた。吹き抜ける風が心地よく感じられ、鳴き声が良い相思鳥が樹間を行き来している。清水峠分岐点に戻り、クロアゲハが舞う境界復帰点を経由し清水峠に向かうが、明日登る観音岳、堀坂山を見ることができる。縦走路は所々荒れているが、比較的歩き易い山道となり清水峠に到着。荷物をデポした後最後の急登を頑張って髯山に到着した。三等三角点の山頂には展望台と烽火場跡があった。髯山の下りは浮き出た木の根や岩につかまり慎重に急降下し、清水峠には16時30分に戻ったが、明日の行程を楽にするため柚原町下出を目指す。延々と県道29号松阪青山線を歩き、下出に到着し待望のビールにありついた。下出キャンプサイトの夜空

の下で感動の乾杯をする。

6月9日(日)晴

爽やかな朝を迎え、5時前に出発。一番茶の収穫が終わった茶畑の連なっている後山町に入った。飯福田川と交差の東谷入口より荒れた登山道に入るが、途中崩壊箇所があり尾根コースに変更した。昨日聞こえなかった鶯の鳴き声が聞こえ、更に与原町の林道合流点まで進むうちに鶯の鳴き方が変わった。県道45号合ヶ原松阪線沿いの崖にはガクウツギが咲き、妙見堂で冷たい湧き水を飲んでやっと堀坂峠に到着した。休憩後、サブザックに変え堀坂山登山口に向かう。石の鳥居をくぐり石灯籠の前を抜け、しばらく歩くと大日如来座像と石像の役行者像が並んで鎮座しており、登山道は昔の参道だと判る。尾根へ出て程なく三等三角点の堀坂山に到着した。堀坂山は局ヶ岳・白猪山と並ぶ伊勢三山の一つで、石積みの土台の上にたくさんの祠や石碑が並んで、古くからの信仰の山を物語っている。山頂で松阪市と伊勢市街地それに伊勢湾の展望を楽しんでいると、赤Tシャツお揃いの山ガール到着して場が華やいだ。休憩後東進して三つ目のピーク雌岳に到着。眼下に東尾根から森林公園までの稜線を見る。急な尾根道を下り森林公園センターに到着。昼食後、観音岳に向かう。展望台を経由した尾根コースは岩が露出し、ロープが張ってある箇所もある。観音岳東峰の祠から稜線を進むと、二等三角点の観音岳に到着。山頂より堀坂山もよく見え展望は良い。観音岳からはササユリを保護するための調査番号札がついた細い棒が添えられた箇所が点在していた。また、エゴノキの白い清楚な花が枝いっぱいに咲き登山道を覆っていた。堀坂山登山口で下山して、天候に恵まれたこともあって予定どおりの行程を終了した。

【コースタイム】

8日 中宮公園登山道入口09:48—11:30大日拝展望台
11:30—12:06矢頭山12:27—15:38髯山15:45—17:53下出
キャンプサイト

9日 下出キャンプサイト04:51—08:05堀坂峠08:15—
09:10堀坂山09:30—11:12森林公園センター11:35—13:36
観音岳13:45—14:39堀坂峠

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 村田かおり 橋本圭之輔 (会員
外) 松仲史朗 計5名



**支部山行13-10 関西支部県境縦走6
蜂谷坂～さっこり峠～若洲分岐～奥海岬**

山本義博

6月15日(土)雨

天気予報通り集合駅である智頭急行大原駅では雨で、どの程度の降雨か、いつごろ上がるのかなど話しながら迎えのバスで出発点の蜂谷坂に向かった。

参加者は、計画書では16名であったが、1名が不参加で15名となり蜂谷坂に到着。雨や蛭対策などの身支度を整え、準備体操後出発した。

雨の中、黙々と県境を登り始め、ほどなくしたら智頭急行線の蜂谷トンネルの真上に到着。そこから少し下がったところが中の原分岐。樹木などのなか、雨・霧の中、ひたすら上り下りを繰り返えし、三角点「西町」の手前の鞍部で休憩。ここから倒木を迂回・乗り越え・潜り、を繰り返すと本日最初の三角点(四等473.9m)に到着し、ここで雨の中の昼食休憩。三角点は倒木の一部を覆われていたが、倒木を少し押しつけて写真撮影した。

三角点から倒木の中を苦労しながら下ると小さな峠に出合い、登り返すとP446に。そこには4体の地藏様があり、そこから急坂を下ると国道(智頭街道)が通る「さっこり峠」に出た。峠には喫茶店があったが営業しているのか、いないのか店には誰もいなかった。腰かけにちょうど良い土砂崩れ防止の石積があり、一息入れた。

この地点で、本日の行程の約半分かと思いつつ重い腰を上げ、急な坂のよじ登りを繰り返すと、三角点・竜王(531m)に到着。さらに雨の中の上り下りを繰り返しP531に着いた。そこからは、比較的歩きやすい尾根筋を行くと、ほどなく本日の最終地点である若洲分岐の小さな峠に着き、宿泊先の送迎バスが待つ若洲コミュニティ会館横までやせ細った道を下った。

今日は一日中雨具装着の行動で、複数の人が足の痙攣を訴えたことから、熱中症気味になるほどの悪条件であったのではないかと。宿で風呂に入り、明日の天候回復を期待しながら楽しい夕食となり、一日目の終了となった。

6月16日(日)晴

天候は昨日と打って変わって晴れとなり今日は期待できそうだと話しながら、バスで昨日の終点である若洲コミュニティ会館前に到着し、準備体操の後県境縦走の離脱点である若洲分岐に向かった。しかし、昨日の強行軍の後遺症か、1名が縦走を断念し、総勢13名での縦走開始となってしまった。

若洲分岐からは急な登りが待っていたが、昨日の蒸し

暑さはなく、そこそこ快調に進んだ。旧坂を一つ越えるごとに、休憩をはさみ、新緑の名残や周辺の山を見ながら、また、涼風に当たりながら進むと送電鉄塔の基部に出た。この地点では見晴らしもよく、暑さもそんなになかった事や予定よりも早めの到着であったこと等、少し長めの休憩となった。休憩後ほどなく三角点・山根(633m)に着いた。予定ではここで昼食となっていたが、天気も良く快調に歩けたので、小休止、記念撮影のあと先に進むことになり、涼風が感じられる尾根で昼食をとった。

昼食後、少し下ってから急な登りに出会う。その後も倒木に道を阻まれ、迂回等苦勞して三角点・杉ノ奥(823m)に到着した。ここからは下り坂であり、歩きやすくまた、来月に予定されている「日名倉山」が良く見えた。

今日は昨日と違い天候もよく快調な縦走となり、予定よりはかなり早く今回の最終地点である奥海岬へ全員無事に到着。昨日と同じ送迎バスに乗り込み、昨日の宿舎でシャワーではあったが汗を流すことができ、満足して帰路に着いた。

【コースタイム】

15日 蜂谷坂10:00—11:50土ノ庄山(点名・西町)12:30—13:23P446—13:45さっこり峠—15:05三等竜王—16:55若洲分岐—17:30若洲

16日 若洲分岐08:50—10:40四等山根—13:20四等杉ノ奥—14:05旧奥海岬—14:15奥海岬

【参加者】

山内幸子 黒田記代 新本政子 清瀬祐司 橋本圭之輔
前田正彰 松村文字 宗實二郎 山本義博 (会友)黒岩敦子 松村竹次郎 (会員外)稲葉淳一 大和紘

15日のみ 魚津清和 (会友)青木昭

15日 計15名 16日 計13名

**支部山行13-11 ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる 3**

6月20日(木)実施予定の「大和三山めぐり」は降雨により中止しました。

**支部山行13-13 大峰の名花「オオヤマレンゲ」を見に
大峰山系・八経ヶ岳**

阪下幸一

7月13日(土)

行者還トンネル西口は三連休の初日かバスを含め多く登山者の車が並んでいた。

激しい雷雨が降りだしたので車内で昼食しながら待機、小降りになり出発。行者還トンネルの手前に登山口があり、谷沿いから橋を渡り山腹を登る。

行者還岳との分岐は奥駈縦走路で緩やかな尾根道が続く。霧で展望はなく、時折「バイケイソウ」の群落も見られる。吉野からの山伏の団体は「靡」と言われる聖地でお経をあげ参拝をしている。聖宝の宿から弥山へは標高差300mの聖宝八丁の急登。登りきれば弥山小屋はすぐ、周囲にテント場があり八方睨みの景勝地も近いが霧の為、展望は無く残念。小屋も満員、予約していたので部屋は確保。小屋の近くの弥山神社に詣でる。神社の北側はトウヒ、シラビソの森ほとんどが枯れ白骨林で鉄山の尾根に続いている。小屋前広場の「史跡大峰奥駈」案内板には、平成16年(2004)7月に世界遺産登録された170キロに及ぶ厳しい修行の道とある。「靡き八丁」と称され道の左右それぞれ400mについては修験道教団や地域住民によって厳格に管理され、樹木も伐採も行われない風習が守られ自然林本来の姿で残されている。山伏の一行は離れに宿泊、夕食前にはお祈りをして修験道の地であることを感じる。

7月14日(日)



八経ヶ岳山頂にて 写真提供・阪下幸一

八経ヶ岳へは鞍部を下り、柵内に入りオオヤマレンゲの花を見ながら登る。丁度満開の頃、多くの花を見る。柵から出て登ると1915mの頂上に着く。今朝、早く登った山伏の経木が置かれていた。近畿の最高峰で役行者が八巻の法華経を収めた修験道の聖地。霧の為展望なく奥駈道を南下、再び柵が現れ天川村への分岐に出る。奥駈道を少し行くと明星ヶ岳への標識が有り斜面を登ると明星ヶ岳1894mに着く。八経ヶ岳より10mばかり低く大峰山脈第二の高峰。シラビソの枯れ木の囲まれた深山の趣を感じる。弥山小屋に戻り、天気回復も思わしくなく下山にかかる。連休の中日か、多くの人が登ってくる。行者還の分岐で休憩中、遠くで雷鳴が聞こえてきたので

急ぎ下るが中ほどで夕立が激しく降り始め登山道は川となり難儀した。登山口に着いた頃には小降りとなる。天川温泉は満員で入浴できず、黒滝の先の温泉で汗を流し檀原神宮駅で解散した。

梅雨時に咲く大峰の名花「オオヤマレンゲ」は満開で多くの写真が撮れたが、二日とも夕立にあい稜線は霧の為、山の写真は撮れなかった。

【コースタイム】

13日 檀原神宮駅前09:30=11:30行者還トンネル西口(夕立後出発)—12:30奥がけ縦走路—13:30行者還分岐—14:40聖宝の宿—15:50弥山小屋

14日 弥山小屋05:30—06:30八経ヶ岳—07:30明星ヶ岳(往復)—9:00弥山小屋09:40—10:45聖宝の宿—11:45行者還の分岐—12:30トンネル西口=15:30檀原神宮駅

【参加者】

新本政子 岩崎しのぶ 阪下幸一 阪下悦子 (会員外)
岡本欽司 菅生佳余子 計6名

支部山行13-15 関西支部県境縦走7

奥海岬～日名倉山～後山～駒ノ尾～大海里岬

山内幸子

7月20日(土)晴

今回は参加者が少なく宍粟50山ガイドクラブの二人の参加も含めて12名で歩く。サポートが須磨岡さんと阪下悦子さんの2名。今回は須磨岡さんが後山の修験業者が泊まる板馬見溪谷の入口にある宿泊場所を借りて下さったので助かる。

智頭線大原駅集合で車5台に分乗して奥海岬(おねみたわ)に行く。サポート隊は夕飯の買い出しや次回の宿泊の申し込みなどに行って下さる。

奥海岬には希望岬と記された石標がある。日名倉山の途中にあるベルピール公園まで車道があるのだが我々は忠実に県境を辿る。ススキや鹿が食べないので蔓延するイワヒメワラビの中を、汗をかきながら登っていく。岡山県ではススキは萱として使用されるので保護されているようだ。カシワの木も多く樹林帯に入ると涼しい風があり公園の鐘楼から時々聞こえる鐘の音が心地よい。鐘楼の下で明日歩く後山から駒ノ尾の稜線や那岐山を眺め休憩をとった後、県境を辿り一等三角点の日名倉山へ。三室山や遠くに氷ノ山も見える展望のよい広い頂上で日名倉神社奥の院の小さな祠、日名倉山山頂標識、日名倉三の丸石標、一等三角点標などがあり賑やかである。昼食後、後山山頂を見ながら下り始め国道429号が越えて

いる志引峠に下り立つ。再び県境尾根を辿りながら上峠までアセビと針葉樹の多い広い踏み跡を登っていく。上峠からは播磨から西の大峰山である道仙寺へ向かう修験者が多く越したであろう行者道、上ノ峠道を下っているつもりが歩きやすい作業道を下り道路に出る。名刀備前長船に形を変える千種鉄が作られていた当時の名残の鉄が石に混じって落ちている。須磨岡さんの車で車回収後エーガイヤちくさ温泉入浴後修験荘に行く。悦子さんの下ごしらえがあったのですぐに夕食開始。猪鍋を食べながらお酒と話が弾み楽しい時を過ごす。さすが宍粟の名士須磨岡さんでお酒の差し入れがあり、8000m峰登頂者支部長にサインをもらいたいという地元の中高生から頼まれた色紙を持って中学の先生も来られたりした。



賑やかな日名倉山頂上にて 写真提供・重廣恒夫

7月21日(日)晴

3時半起きで朝食後、最後の片付けをサポートのお二人に任せて5時前に出発し上ノ峠登山口へ向かう。体操の後、お地藏様の前を通り今は荒れている上ノ峠道から登る。上峠から直に取り付き、まばらな植林の中の道を進む。四等三角点・入谷や大岩の立つ岩場を越えると後山のピークが見えだす。昨日より気温は低く薄雲があるので思ったより楽に歩ける。ブナが多くなってくると頂上が近い。ネマガリダケも枯れていて歩きやすい。

後山は岡山側から見たら西の大峰山の道仙寺の後ろにあるので後山と呼んでいるのではと言われるが、播磨側からは板馬見山とか教霊山とよばれている。祠があり今も神事が行われているとか。頂上にもブナが多く今年は実を付けていたので秋にはたっぷりのブナの実が落とされるだろう。南西に吉備高原の山々、今まで歩いてきた県境の稜線や日名倉山が眺められ、東に三室山も見える。休憩の後、船木山から駒ノ尾を眺めながら進む。中国自然歩道であり、おまけに宍粟50山ガイドクラブの人達の整備のおかげで自然と足が早くなる。宍粟50山の標

識のある船木山を越え四等三角点・粟倉、ササの中の鍋ヶ谷山を越えて駒ノ尾、大海里峠までの道は「天空回廊1000mの風に乗って」が体感できる道だ。駒ノ尾の山頂標識の周りに並べられた石に一人ずつ座り風に吹かれながら食事タイム。後山・船木山・日名倉山を眺め至福の時を過ごす。「天空の回廊」も大海里峠までを残し、ちくさ高原に下る。駒ノ尾登山口に下り立つとちくさ高原のユリ園に向う車が多く通っていた。「エーガイヤちくさ」で汗を流し、姫路まで車で送ってもらいそれぞれの帰路に着いた。

熱中症を心配していたが割と気温が低く風もあり、お天気に恵まれた2日間で楽しい山行ができた。今回はサポートがあってこそこの山行で、サポートの須磨岡さん、阪下悦子さんに感謝です。ありがとうございました。

【コースタイム】

20日 大原駅09:25—10:12奥海峠—11:02ベルポール自然公園—11:45日名倉山12:25—13:11志引峠—14:28上峠—14:52上ノ峠道入口

21日 上峠06:08—06:52入谷—08:57船木山—10:13粟倉—10:24鍋ヶ谷山—11:08駒ノ尾11:46—12:10大海里峠—12:52駒ノ尾登山口

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 清瀬祐司 阪下幸一 辻和雄 橋本圭之輔 前田正彰 (会友)黒岩敦子 (会員外)稲葉淳一 山内公一 八木偉行[20日のみ]

(サポート)須磨岡輯 阪下悦子

20日 計12名 21日 計11名

「本山寺山森林づくりの会」作業報告

秦 康夫

2013年4月21日(日)9:00~15:00

作業場所:44林班内

作業内容:1) 間伐 2) 除伐 3) 林床整備

予定日の4月7日が荒天予報のため作業を見合わせ、4月21日を代替作業日とした。須本、福井の両氏は「高尾の森づくりの会」出身。経験豊富な2人のお陰で小人数にも拘わらず予定以上に作業が進んだ。15本程度の間伐と、枯損木の除伐、縦向きに倒してあった間伐材を横方向に並べ替えて土止めに使うなど、林床が大分整備されたので、谷間のミツバツツジが姿を現し現わし林間の見通しもかなりよくなった。あと2回程度の作業で、選木済み間伐予定材の間伐は終了しそうだ。

参加者:須本淳史 福井誠 斧田一陽 秦康夫(計4名)

2013年5月23日(木)9時30分～15時20分



5月の作業 写真提供・秦康夫

作業場所:44林班、45林班

作業内容:1) 伐採済み木の数量確認、2) 間伐・除伐、
3) 用具小屋予定地整備

- 1) 森林管理事務所へ初年度作業実績(間伐作業で伐採済み木の本数)報告の必要あり。間伐作業実施済(一部作業中)の5区画の面積を測定(1区画の面積、概ね1,200~1,500㎡)。第1区画については伐採本数確認済。第2~第5区画については次回以降。
- 2) 44林班内に残された小木の間伐及び除伐実施。

3) 45林班内にある用具小屋建設予定地の周囲の整備及び伐採予定木の選木実施。

参加者:阪下幸一 斧田一陽 河野直子 秦康夫 武田
壽夫 薦田佳一 宮本廣 中村康則 倉谷邦雄
(計9名)

2013年6月23日(日)9:30~15:30

作業場所:44林班第1~第3区画

作業項目:1) 伐採済み木の数量確認 2) 間伐・除伐 3)
用具小屋用材調達

前回に引き続き、伐採済み木の数量確認と間伐、除伐作業実施。第1区画は、数量確認及び間伐終了。第2区画の間伐も未伐採3~4本を残すのみとなった。掛かり木になって処理に時間を要した木が3本あったが、作業は順調に進み、本日の間伐、除伐本数は約35本。作業の合間に、作業用具小屋の用材として適当な木を選んで皮剥ぎした。梅雨どきとあって皮剥ぎは非常に容易だった。水気の多いシーズン中にできるだけ多く、皮剥ぎ作業を進めておきたい。

参加者:薦田佳一 須本淳史 福井誠 斧田一陽 武田
壽夫 宮本廣 中村康則 倉谷邦雄 秦康夫
(計9名)

2013年10月～12月 支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【締切厳守】

13-23 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる6

「湖東 八幡山北尾根縦走」

日 時：10月3日(木)

コース：JR近江八幡駅＝渡合バス停―百々神社―水郷展望台―望西峰―北の庄城址―八幡山（鶴翼山）―村雲御所―日牟礼八幡宮＝JR近江八幡駅

幡駅

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合があります

申込み：9月25日迄 久保和恵

13-24 関西支部県境縦走10

日 時：10月18日(金)・19日(土)
コース：9月までの進捗状況によりコースが決まります。HP等で確認してください。
備 考：詳しくは申込者に連絡します
申込み：10月6日迄 山内幸子

13-25 レスキュー講習

「悪場・難場・岩場での歩き方と身のこなし方」
日 時：10月20日(日)
集 合：午前9時 蓬萊峡大扉風岩前集合
内 容：悪場での固定ロープの張り方 懸垂下降支点の作り方と回収方法・懸垂下降時のトップと後続の動作 ロープのまとめ方と結び方・負傷者の引き上げ・移動・運搬方法など
持ち物：(個人装備)ハーネスの代用になるテープスリング(1.2~1.8m)1本、カラビナ2枚以上(安全環付きが望ましい)、ナイロンロープ1本(フリクションノット用ロープスリング作成直径6or7mm×長さ2m)、通常の山行きで使用する登山用品一式とザック
(共同装備)非常用ロープ(直径8or9mm×長さ10~15m)2~3本
申込み：10月13日迄 山本一夫

13-26 4000山グランプリ

「屏風山1354m・蠅帽子嶺1037m」
日 時：10月26日(土)・27日(日)
コース：樽見駅—屏風山—蠅帽子嶺—樽見駅
地 図：2.5万分の1「平家岳」「能郷白山」
備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須
申込み：10月10日迄 重廣恒夫

13-27 4000山グランプリ

「仙千代ヶ峰1100m」
日 時：11月9日(土)・10日(日)
地 図：2.5万分の1「宮川貯水池」「大杉溪谷」
備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須
申込み：10月24日迄 重廣恒夫

13-28 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる7

「高取山」
日 時：11月14日(木)
コース：近鉄壱阪山駅—高取山—奥の院五百羅漢—壱

阪山—近鉄壱阪山駅

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合があります
申込み：11月4日迄 久保和恵

13-29 関西支部県境縦走11

日 時：11月23日(土)・24日(日)
コース：10月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください。
備 考：詳しくは申込者に連絡します。
申込み：11月10日迄 黒田記代

13-30 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる8

「播磨 高御位山」
日 時：12月5日(木)
コース：JR加古川駅=霊園前バス停—長尾—高御位山
三角点—鹿島神社—JR曾根駅
備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合があります
申込み：11月24日迄 久保和恵

13-31 4000山グランプリ

「四国 蟠蛇森・鈴ヶ森」
日 時：12月14日(土)・15日(日)
コース：14日 徳島=須崎東IC=川の内—朽木峠—
蟠蛇森—桑田山神社=四万十市=松尾川温泉
15日 松尾川温泉—杖立—三町界—鈴ヶ森—
高山—松尾川温泉=四万十IC=徳島
地 図：2.5万分の1「新田」「佐川」
備 考：四国支部との合同山行 一般参加可 山岳保
険加入が必須
申込み：12月1日迄 久米久夫

13-32 関西支部県境縦走12

日 時：12月22日(日)・23日(月)
コース：11月までの進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください。
備 考：詳しくは申込者に連絡します。
申込み：12月10日迄に 黒田記代



申込み先一覧

重廣恒夫 e-mail: shigehiro-ts@asics.co.jp
 久保和恵 e-mail: unclertorys05-kazu@nifty.com
 FAX: 079-565-0530
 久米久夫 e-mail: ta-ko325@shirt.ocn.ne.jp
 黒田記代 e-mail: kuroda@makino.kmu.ac.jp
 山内幸子 e-mail: sacchyama2f0710@m5.gyao.ne.jp
 山本一夫 e-mail: miyako385@sky.plala.or.jp

ステップアップ登山教室

一般対象 募集中

2ndステップ

初級 10月1日(火) 百丈岩～秀ヶ辻山～高座山
 11月5日(火) 飯盛山～菩提山～行者山
 中級 10月24日(木) 大月地獄谷～五助山
 11月21日(木) 五助谷～西お多福山
 上級 10月10日(木) 京都北山・毘沙門谷
 11月14日(木) 滝畑・上山谷

3rdステップ 12月12日(木)座学

初級『冬の安全・快適トレッキング術』
 中級『冬の安全・快適登山術』
 上級『冬の安全・快適登山術・積雪期登山の基礎知識』

支部報合冊製本のご案内

総目次単位で「支部報」を合冊製本します。
 希望者は、所持している「支部報」に該当する「総目次」を添えて下記あてお送りください。同時に送金先にご送金ください。
 欠号の補充を希望される方は、コピー(1号につき100円)にて補充しますので、申込時にその旨お知らせください。
 なお、84号は欠番です。欠号ではないのでご注意ください。

費用 : 51～150号(2冊分) 5500円
 : 51～100号または101～150号 3000円
 ※コピー補充を希望される方は、必要号数分の金額を加算してください。

送金先 : 郵便振替口座00930-6-55950

加入者名 : 「日本山岳会関西支部」
 払込取扱票・通信欄に「製本費」と「欠号補充号数」記入のこと

送付先 : 611-0002 宇治市木幡金草原60-6
 野口恒雄宛

締め切り : 9月25日(お渡し予定:11月中旬)

第24回 誕生126年

藤木祭

日時 平成25年9月29日(日) 午後1時から

場所 芦屋・高座の滝前(雨天決行)

主催 日本山岳会関西支部 兵庫県山岳連盟
 大阪府山岳連盟

後援 芦屋市 近畿地区山岳連盟

藤木祭記念ハイキング

集合 平成25年9月29日(日) 午前8時30分

場所 阪急御影駅北口

コース 岳連の森…打越山…風吹岩…高座の滝

担当 兵庫県岳連、大阪府岳連

◎第17回森の勉強会 ご案内◎

テーマ 六甲の森と草原

日時 10月5日(土)～6日(日)

場所 兵庫県立人と自然の博物館 3階中セミナー室

座学 日本の植生 武田義明(神戸大学名誉教授)
 生物多様性とその保全 楠本佳延(人と自然の博物館主任研究員)
 ブナを植えて30余年 桑田 結(ブナを植える会会長)

観察 紅葉谷道 ブナ自生地と育成地
 六甲最高峰 ブナ育成地
 東お多福山 ススキ草原復元地

宿泊 有馬温泉(ザ・グランリゾート・プリンセス有馬)

会費 19,000円(予定) 5日のみ 1,000円

備考 兵庫県立人と自然の博物館協力事業として実施予定 博物館入館可能
 JAC関西・東海・京都支部自然保護委員会共催(関西支部担当)
 締切 定員25名 5日のみ15名 いずれも先着順

申込先 斧田一陽 Tel&Fax 072-633-6556 または 携帯電話 090-4037-4542



ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 (税抜)
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

新刊

山の本をつくる

中西健夫 著
A5判 290頁 2800円
長年にわたる山書づくりのノウハウ、著者との交流のエピソードなどを語る。

◎「山が好き、本が好き」が高じて、半世紀にわたって

近刊

続 一等三角点全国ガイド

◎全2巻完結!! 五百米以下の一等三角点を全て網羅
一巻二角点研究会 編著 A5判 212頁 予価1800円
中高年向きの五百米以下の山や、平野の中の三角点、困難な離島の三角点等を別別に紹介。【今秋発行】



奈良・釈迦ヶ岳

一巻二角点研究会 編著 A5判 260頁 2000円
北海道から沖縄まで五百米以上の全一等三角点について、標高・基準点コード・選点・地形図名・経緯度・所在地と写真を掲載し、研究会の会員が実際に辿った出発地から登山口を経て三角点までの登山道を案内。

登山案内 一等三角点全国ガイド

◎第七回 今西錦司賞受賞!



ナンキンハゼを食うシカ

照葉樹林とシカをめぐる生態と文化
前迫ゆり 編著 (大阪産業大学大学院教授)
A5判 292頁(口絵20頁) 2500円
奈良の世界遺産・春日山照葉樹林が、天然記念物のシカの影響などで崩壊の危機に瀕している。研究者たちが、春日山の森林の過去と現在を語り、未来につながる方策を考える。

世界遺産 春日山原始林

台北市内に3連泊。滞在型の日程でゆったりハイキング

台北滞在ハイキング 九份、草嶺古道、陽明山 4日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
11/12(火)～11/15(金)	¥138,000

台北近郊にはハイキングが楽しめる場所が数多くあります。ススキの穂がたなびく11月はハイキングに最適な季節です。台北市内の快適なホテルに3連泊し、ハイキングはもとより、観光や食も楽しむ、コンパクトな日程ながら盛りだくさんの



▲東シナ海の展望が素晴らしい湾坑頭山



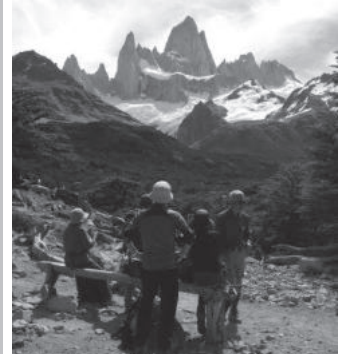
▲台湾の“食”も楽しみ(イメージ)

パタゴニアを代表する2つの山群で連泊し、ハイキング

パタゴニア2大山群滞在 ゆったりハイキング 14日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
11/19(火)～12/2(月)	¥784,000

チリ側のパイン山群とアルゼンチン側のフィッツロイ山群の2つの山群で連泊。氷河により削られた芸術的な岩峰を眺めながらハイキングを楽しみます。ペリト・モレノ氷河の氷河湖クルーズやブエノスアイレスの市内観光も含んだ内容充実の山



▲名峰フィッツロイを眺める



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3 (TCF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆この夏、太平洋側では猛暑日が続き、日本最高気温も更新されました。また同時に、日本海側や北日本ではこれまでに経験のない大雨に見舞われ、甚大な被害を被っています。そんな中、中央アルプスでは韓国人登山者による死亡者を含む遭難事故が起き、海外登山では天候が大きな盲点であることを知らされました。☆この度、「関西支部80年史」の編集長を拝命しました。定期的に発行されている「関西支部報」が資料として役立っています。しかし、細かい点で抜けている部分も多々あります。写真や記録、メモ等を支部に提供いただくとともに、今しばらく廃棄はお控えください。

(M)

発行日 2013(平成25)年9月10日
発行所 〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-5-12
大阪セルロイド会館205号
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 重廣恒夫
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社
大阪市北区堂島2-2-28